

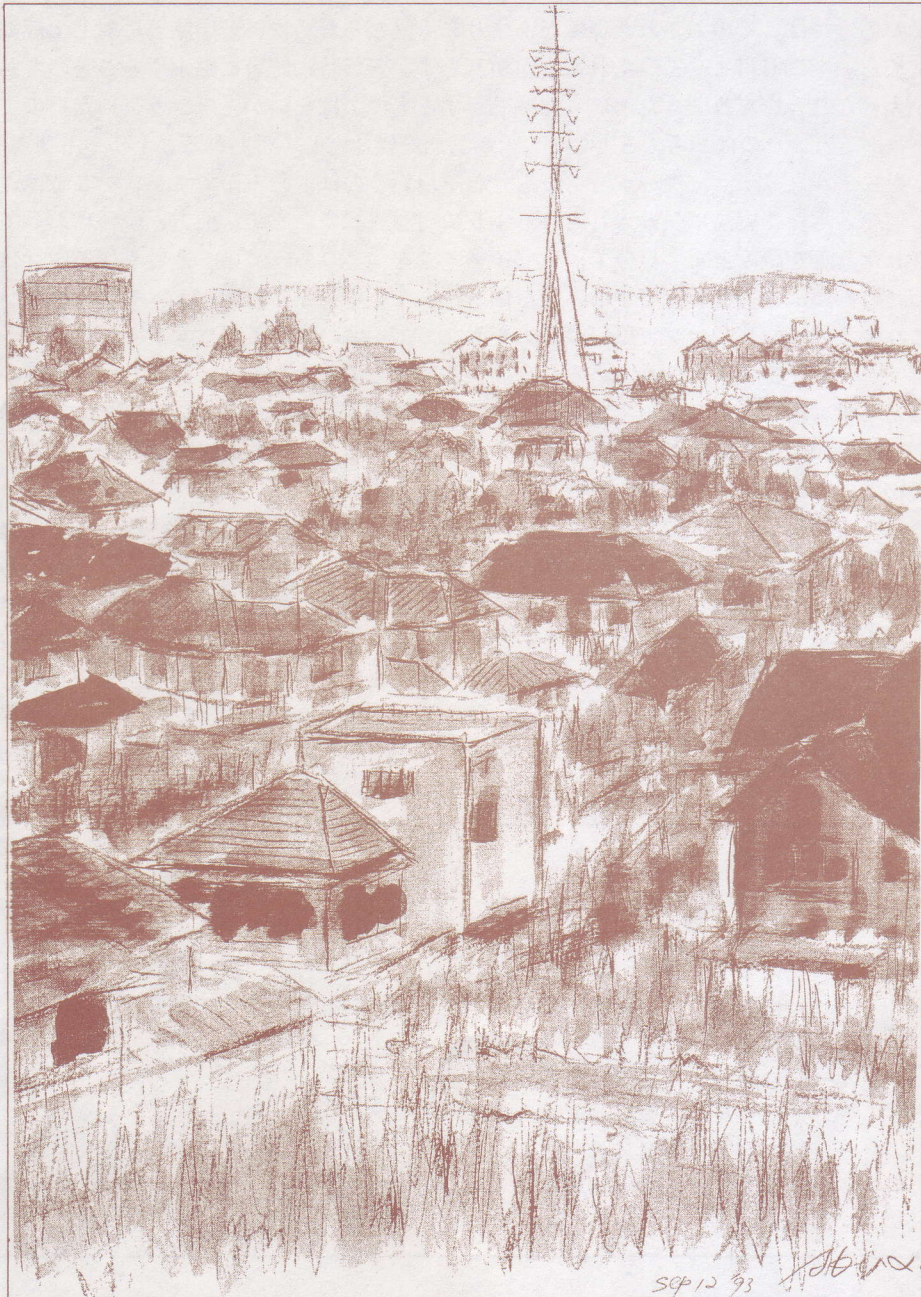
# Library News

図書館だより

No. 37

Nara National College of Technology

1994年7月 奈良工業高等専門学校図書館発行



(石垣 昭・本校名誉教授スケッチ集より)

## 「読書について若い諸君へ」

校長 福岡 秀和

読書について語ろうとするとき、はげしい時代の移り変わりを感じざるをえません。ここで言う読書の対象としているのは、いわゆる専門書ではなく古典と言われる文芸書を中心としたものです。マスメディアの黄金時代とでもいえる現在の若者と、ほとんどの物資や情報が統制下にあった時代に青少年期を過ごした私たちとでは、そのおかれた環境があまりにも異なるために、若い諸君に対して読書について語るのにためらいを禁じ得ません。それにもかかわらず、若い時に読書に熱中することのなかった人生は、なにか大切なことを忘れてきたといった感じがするものではないかと思うと言いたいです。

読書が大事であるというのは、考えるということが言語を媒体として行われることから明らかです。テレビなどビジュアルなコミュニケーションでも言語を用いるのはもちろんですが、そこでは対象はイメージとして何の苦もなく容易に受け入れられるように用意されています。他方、読書においては紙のうえに印刷された言葉を読みとって自分で消化しイメージをつくりあげていくという作業を行わなければなりません。これには労力を要しますし、読む側が持っている知識の程度によってその解釈が異なるのは当然であります。テレビやマンガは何の努力をしなくても頭の中に入ってきますが、いつも努力せずに受け身でイメージを脳の中にいれているとひ弱な脳になってしまうのは、運動しない体がひ弱になるのと同じことです。歯ごたえのある本を読むことによって精神も鍛えられていくのです。同じ本を繰り返し読んでも読む側の成長に応じて新しい感動を与えてくれます。逆に、繰り返し読んで新たな感動を与えない書物は二度と読む価値のないものだったともいえましょう。

古典といわれる書物は長い年代にわたって人々に読み継がれ、鑑賞に耐えて生き残ったものです。諸君が古典を読むことによって人生について真摯に考え懸命に思索すれば、幾世紀も前の偉人との直接の対話を通じて諸君の人生を高めることが出来るのです。17歳の感性で受け入れることが出来るのは、17歳の時に読む機会を逃しては得られないのです。過ぎ去ってしまえば二度と帰らない貴重な時をあたたら無為に過ごすことの無いよう、そのひとつの手段としての古典の熟読を若い諸君におすすめする次第です。

---

### 目 次

- 1 卷頭言「読書について若い諸君へ」……………校長 福岡秀和
  - 2 特別寄稿「古い書棚の一冊の本」…本校名誉教授 犬田修正
  - 3 卒業生からのメッセージ
  - 4 心に残る一冊の本（その5）
  - 5 平成6年度読書感想文コンクールについて
  - 6 新・図書委員会スタート！
  - 7 平成5年度図書館利用状況等
-

古い書棚の一冊の本

本校名誉教授 犬田 修正

古い書棚を整理していると「真理への意志」澤瀉久敬（おもだかひさゆき）著、角川新書という本が眼にとまった。この本は大学を出て数年後に入手した本である。パラパラめくってみると、書き込みをしたり、傍線を引いたりしてあったので、かなり念入りに読んだ本のようなのである。当時私はパナールの「歴史における科学」Ⅰ～Ⅳを熱心に読むなど、自然科学史や哲学の書物にも大いに興味をもっていろいろ読みあさっていた。この本の副題は〈哲学と科学についての十三のコースリ〉で、著者が当時NHKから「哲学と科学」というテーマで放送されたものを一冊の本としてまとめ出版されたものである。私は懐かしさのあまり、本の整理を一時中断して、再度読んでみた。そしてこの本のすばらしく立派であることを再認識させられた。高専で学ぶ皆さんもどうか一度読んで欲しいと思う。一般に哲学と名のつく本は難解という印象が強すぎて近寄り難い存在である。しかし理工系を専門とするわれわれでもこの本を読めば、表題は一見難しそうに見えるが目からウロコが落ちるような快感さえ覚えさせてくれる不思議な本であることがわかる。

というのも、哲学を論ずる本としては珍しく、文体がやさしく、美しく、論述が明瞭で、気取らないやらしさがないためであろう。この本の一読をお勧めする理由は他にもいくつかある。

母親が幼児に食物を与えるとき、自分の歯で十分咀嚼して幼児に余計な負担をかけさせず、消化不良にならぬようにと気を配り、そして与えた食物のすべてが幼児の血となり肉になるようにとの願いを込めて与えるように、この本の著者は哲学的内容を、哲学者らしくがっちりした論理構成を保持しながらも、難解な言葉を一切使わず、澁（よど）みなく流れるような文章表現で読者にやさしく語りかけてくれているのである。再読して私は少し気負った言い方になるがこの本は哲学と科学の問題を論理的に論じているだけでなく、真の学問はどのように形成されねばならないかということを追求め、若い読者に学問の歓びを伝え、真理への熱情を喚起したいという著者の強い意志のもとに書かれた本だとの印象を一層強くし、本の表題の意味をかみしめさせられた。そして著者の学者としての学問への謙虚ではあるが真剣でひたむきな情熱ときびしさのようなものを垣間見た思いがした。

幸いにして学校週5日制が実施され、時間的にもゆとりができたと思われるので現行カリキュラムの枠からはみだして、このような本も併せ読むことにより、自己の内的充実と物事を深く思索する力の向上を図る自己学習カリキュラムの構築を行い、実行に移すべきでないかと思う。このことは高専教育の弱点の克服と21世紀にはばたく高専生の皆さんにとって極めて大切なことだと思う。

# 卒業生からのメッセージ

## 在校生と図書館の皆さんへ

機械工学科 豊田さとみ

皆様お久しぶりですが、お元気でしょうか。このゴールデンウィークに原稿を持って、図書館に顔を出すという約束をしていましたが、残念ながら日にちに都合がつかず、行けませんでした。お世話になった図書館の方にお礼を言いたく思い、このような形で原稿を書かせて頂いています。

高専在学中は、いっしょに本を探してくださったり、いろいろな楽しいお話を聞かせていただいたり、大変お世話になり、どうもありがとうございました。娘さんや息子さん達もお元気でしょうか。私の方は、ようやく学校にも慣れ、授業は毎日8時間と大変ですが、新しい友達にも恵まれ、楽しい毎日を送っています。下宿の方も学校に近く、時間を気にせず遊んだりできるので喜んでいきます。

先日、大学の図書館はどのような所かと思い足を踏み入れてみました。そして、莫大な量の書物の中から、“奈良工業高等専門学校研究紀要1965—1992”という数冊の本を見つけました。卒業して初めて、お世話になった専門の先生や一般の先生の研究を知り、このような研究をされていたのかと大変驚きました。全文英語で書かれたものや、数式ばかりのものもあり難しくとぜんぜん分かりませんでした。興味深い研究は数多くありました。この本は、奈良高専の図書館にもあるのでしょうか。これを読んでくれている高専生の皆様にお勧めしたいです。ぜひ一度、読んでみてください。

さて、図書館をグルッと一周し、その広さと、机や専門書の多さは分かったのですが、高専の図書館のような、たくさんの文庫本や映画のビデオやLD版は無く、ちょっと残念に思いました。

私は、本は好きですが、活字ばかりの本はどれも苦手です。こんな私でも、高専の図書館は、大いに利用させて頂きました。例えば、趣味のピアノです。楽譜を借りたり、弾いている曲の作曲者について調べたり、また解説を読み感情導入や弾き方、曲の送り主などを知ることもしました。たとえ数行でも、大抵の曲の解説はどこかに書かれてあり役立ちました。また、美術のコーナーには、絵の描き方やレタリングブック、いろいろなカードや幾何学模様の本、他にも絵本など、見て

いるだけでも楽しめる本が数多くありました。特に私の尊敬するいわさきちひろさんの絵本は、温かく感動的です。他にも大好きなムツゴロウさん、星野富弘さん、吉本ばななさん、ジョン・レノンに関する本、童話などは楽しく読ませて頂きました。また、クラブで在籍していた茶道に関する本やビデオも、年々増えてきて、お稽古に役立ちました。少林寺拳法の方も、技を磨こうとそれに関する本を探したのですが、こちらはありませんでした。その様な時には、カウンターでリクエストすればよかったですね。英語や何語とも分からぬ小さい絵本、毛筆で書かれた本、宮沢賢治の手帳、そのような一風変わった本を図書館の奥で発見した時は、こんなにもあるんや！と驚きの一言でありました。雑誌やマンガ・ビデオやLDなどもあり、高専の図書館はいろいろ豊富でよかったです。

テスト前やレポート、卒論に追われる日にも図書館は強い味方でした。味方にしきれなかったことの方が多様な気がします。探していたのとそっくり同じ問題を見つけた時や、熱心な人の目印や線、あるいはこうすればよい、とかこう書けばよいなどという手書きの文が書かれていたりすると、落書きですが、私としては楽書き気分となり、心強く、感謝したことまでありました。図書館中央にある世界理科学辞典や玉川新百科などの百科辞典も、利用している人は少ないようでしたが、専門的な語句が手取り早く見つかることもあるので、チェックしてほしいです。

卒業して大学に編入し、思ったことですが、高専は一年からの実習で専門分野に実際に触れ、専門をより身近に感じ実践できるという点と、すばらしい先生方から丁寧で時間をかけた授業を比較的少人数で受けられるという点で、専門的には奥深く非常に恵まれた環境であると思います。でも、早くから、専門に着き、受験勉強が無いというのは、メリットだけではないようです。幅広い知識や一般教養を身に付けるため、また自分の興味ある事を見つけ、追求し、楽しむため、そのような手段の一つとしても図書館の利用をお勧めしたいです。

今度の夏休みには遊びに行きます。土産話をためておき、会えるのを楽しみにしています。お体に気を付けてお仕事がんばってください。

## ある日、図書館にて寝る

機械工学科 藤本周作

図書館ではほとんどレポート用の専門書しか借りなかった私が図書館だよりの原稿を書くことになった。私のクラスは図書館利用率が低く、図書館に顔を知られている人間が他にいなかったのだろう。

さて、何を書こうか。やはり、お約束であるかの様に自分の過去5年間の図書館利用状況か、もしくは図書館利用のススメみたいなものがいだろうか。つまり、メジャーなところでいくと例えば、5年間を通してもっぱら小説しか借りなかったが、そのおかげで専門分野以外にも視野を広げる事ができた等という類の話が図書館だよりに合っているのかも知れない。

取り敢えず、あわよくば原稿のネタが浮かぶかとも思いつつ館内をまわってみた。本だらけだ。その数6万冊以上にのぼると聞く。確かに見た事もなく、しかも結構興味を引かれる本が幾つもある。挙げ句の果てには古文書の類まである。結構、謎だ。私が小学生の頃、同じクラスに図書館の本を1年間で全て読破すると豪語した奴がいたが、いくら小学生にしてそれだけのセリフを吐ける奴があってもこれだけの本を目の前に読破しろと云ったら発狂しかねない。

ネタが浮かばないので再び取り敢えず適当な本を手にとり窓際の席に座る。寝ている人が多い。こちら側の席は結構懐かしくて、自分の落書きを発見して消したりする。5年生の前期、この辺りの席で8時前まで受験勉強にいそんでいた頃もあったのだ。この席はとにかく見晴らしが良く、机の上には福嶋先生のお勉強会の板書もしくは物理学演習を開き、一通り目を通したならば、後はひたすら何かに取り憑かれた様に外を眺める。子供を連れて散歩に来るおばちゃんや矢田ガキの生憎が面白い。また、天気の良い日には寝るのがベストだ。むちゃくちゃあったかい。結構幸せな気分。そして、たいてい1日に何人かは図書館に知り合いが現れる。彼らはそれほどまでに暇なのだろうか。だべりに入ると勉強ができない。そう、私は勉強するために図書館に来ていたのだ。彼等との会話が長引くと、ふとそんな真実も見えてくる。まあ、いいでしょう。

結局、図書館を利用したのはその受験勉強の時からだったが、昼のみならず、8時前まで居座って大変迷惑をかけてしまったようなのでこの紙面を借りて、有難うございました。

だらだらと書き連ねて頭が悪いのを丸出しにしてしまったが、突き詰めれば図書館の窓際の席。突き詰めるほどの話ではないが、まあとにかくこれにかぎる。眺めが良いだけではない。市立の図書館ではだべるのは勿論の事、寝に入る事もできず、どこかひんやりとした雰囲気漂う。どうも居心地が悪い。それにひきかえ奈良高専の図書館の居心地の良いこと、少々ならだべっても窓際ならカウンターからの射程圏外だし、寝ていても8時前には起こしてくれる。そんな事もあるから図書館は学生のたまり場の存在になり得るのだろうか。でも、節度ある利用が基本なのは確か。というフォローも遅ればせながらではあるが入れておこう。

そんな事をとりとめもなく考えながら、みたび取り敢えず、私は寝に入る。天気がいいから。

やはり、どうも居心地がよい。困ったものだ。

## 奈良高専図書館 VS 岡大図書館

機械工学科 岸谷征典

図書館といえば、テスト前やテスト中の試験勉強の場として、そしてある時には、授業をさぼって、レポートや製図の最後の追い込みの場として、あるいは、見逃した映画などを見たり、雑誌を読んだりして時間つぶしをする場になったり……と僕にとっては、とても便利な場所として5年間利用させてもらいました。

今考えてみると、高専の図書館は僕にとって一番利用しやすい図書館であったと思います。そこで利用のしやすさを、現在利用している岡山大学の図書館と比べて、僕なりに説明したいと思います。

岡大の図書館は蔵書が153万1610冊（大学の附属研究所等も含めて）で、4階建ての建物でとにかくでかいです。しかしでかければいいものでもありません。先日、ある一冊の教科書を借りに行った時、荷物をロッカーに預け、パソコンで本の番号を調べ書庫へ入りました。書庫の中は、

ただひたすら本本本……他には何もありません。その中から目的の本を捜し出すのに30分かかりました。かなり疲れました。

その点、奈良高専の図書館は、工学書の場所がはっきりしていて、目的の本はすぐ見つけれられます。他の分野の本にしてもとてもコンパクトにまとまれていると思います。さらに、図書館の雰囲気もまったく違います。岡大では、たくさんの先生方が難しい本を調べていたり、気軽に話せそうな図書館の職員の人もないし、ただひたすら専門書ばかりで、とても気安く行ける雰囲気ではありません。

それに対して奈良高専の図書館は、雑誌コーナーや視聴覚資料（特にLD）が多くあったり、新刊書や、話題の本が目につく所に置いてあったりと、気軽に寄っていろいろな知識を得ることができます。夜遅くまで開館していることも、クラブ活動を続けていた僕にとって有難いことでした。

図書館ではタダで本を読むことができます。本からはさまざまなものを得ることができるはずですよ。

得たものを自分なりに解釈して、自分のものにし、遊ぶ時は大いに遊び、勉強する時は勉強して、「やる時はやる」の精神でいけば、素晴らしい高専生活を送れると思います。

## 図書館での思い出

機械工学科 西井 貴 郁

卒論の発表会・審査会が無事に終わり、残すところ3月18日の卒業式を待つだけとなりました。私は久しぶりに図書館でビデオでも見て気分転換でもしようと思い、図書館のドアを開けてカウンターまで行くと、“卒業するにあたって図書館についての思い出を書いてくれない”と頼まれてしまいました。その時は、図書館を5年間利用させてもらったお礼を兼ねて何か書いてやろうと思っていたのですが、いざ書こうとペンを握ると、一体何から書いたらよいのやら少し困っています。

私が初めて図書館に入ったのは言うまでもなく5年前の一年生の時で“なんて広々としたきれいな図書館なんだろう”という印象を受けました。

そのうちに、レポートやら、試験勉強やらで図

書館を徐々に利用する機会が増えていきました。特に試験前になると図書室の机の上には席取りの予約用の本が、これでもかといわんばかりにあふれて、空いている席を探すのに苦勞した事もあります。席が無くて重い本を何冊か借りて帰った事もあります。

また、試験勉強中の雑談について熱がはいたり、図書館の人に怒られてしまった事、図書館の閉館時間ギリギリまで勉強していた事、大きなテーブルを一人占めにして製図を書いた事等も何度かありました。今思えば、このような事は全て良き思い出となってしまいました。

さて、少し話題は変わりますが、図書館には本だけではなく、MT・LD・ビデオなどの鑑賞用のソフトが（種類は少ないけど）あります。私は、授業が自習になったり、クラブ活動の無い雨の日などには、暇潰しのために時々利用しました。私にとっては、ソフトによる映画鑑賞は図書館利用の大きな魅力でした。二度見たソフトや途中までしか見なかったソフト、少し感動して目頭が熱くなってしまったソフト、それにソフトを見ながらついウトウトと居眠りをしていた事さえありました……。

最後に、ビデオ等は本とは一味も二味も違った何かを伝えてくれるとは思いませんか？ 読書好きのアナタもたまにはビデオを見て気分転換して下さい。それと、私はあまり守ることができませんでしたが、本の返却日は必ず守って下さい。図書館だよりに私の文章が載せられる頃は夏休み前になるのでしょうか？ それでは、図書室の人達やお世話になった諸先生方や在校生のみなさんのご健康と益々のご活躍をお祈りして……さようなら。

## Vagueness

化学工学科 佐藤 一郎

高専在学中、私は図書館で大変お世話になりました。私はそのお礼のつもりで原稿を書いています。現段階では題名も考えていませんのでとりあえずパターン通りに話を進めてみます。

高専で一般的な図書館の利用は、実験レポート作成・テスト勉強・デート（のまちあわせ）といったところですか。第3者については、「最近カッ

プルが増えたなあ」という声をよく聞くということです。ちなみに、私はこのようなことには縁がなかったので、迷惑かけない程度にしてくださいといったところです。第1・2者についてはみなさんもご存知だと思いますので割愛させていただきます。

つぎにパターンとしては、読書の方法とか本の選び方という話です。これについては沢山の意見があります。しかし、私は好きなように適当な本を読めばいいと思います。私は、一気に本を読むのが好きで、細切れの時間で1週間かけて本を読むといったことができません。でも、反対意見の人も実際たくさんいます。(私の方が特殊らしいが)。そんなわけですから、読書のしかたは、人それぞれでいいんじゃないかと思えます。ただ、私自身が最も影響を受けた本というと、田中芳樹氏の作品ではないでしょうか。私は、とかく色々なものに影響を受けやすい性格ですが、二年生ぐらの時に、『アルスラーン戦記』を読んで、大きく影響を受けました。「物事を成す前には入念な計画と準備が必要」と書くと、「当り前」・「石橋を叩いてわたらず」というような声が聞こえそうです。確かに、物事がすべて理屈通りに運ぶわけではないですから「臨機応変(いきあたりばったり)」ということも必要です。しかし、理屈に合わなくても、最小限予測できることについては、準備しておくべきです。

また、完璧(理想通り)にしようとするあまりに、実現が不可能だったり、現実とはかけ離れていたりすることもあります。このようなときは、どうしたらいいのでしょうか。

私が『アルスラーン戦記』から学んだのは、「ベストな答えは、他にあるかもしれないが、自分の才能と時間の限り尽くしてベターを求める」のが、最適あらためベターだと思います。

なにか矛盾したようなこと、曖昧なことを書いてあるとみなさんお思いでしょう。私もそう思います。しかし、昔から「過ぎたるは及ばざるが如し」といって、何事にも度が肝心といわれています。だから、時によっては長所=短所ということもある得るわけです。これを今風にいえば、「でもね、それがあなたのいいところ」となったりするわけです。

まだ少し、字数が足りないような気がするので話を付け足します。「皆さん、灰色という色をど

う思いますか?」(灰色という表現の意図するところが全く分からない方は、水野良氏の作品『ロードス島戦記』を読んでください。)私は、以前この色のことをくすんでいて、ずるい、卑怯、まさしく「白黒はっきりしろ」と感じていました。でも今はそう思っていない。なぜなら、白黒写真といっても灰色が多いからです(嘘です)。現実の社会ではYESかNO、白と黒の組み合わせにすぎないわけです。また、写真の灰色もミクロな目でみると白と黒の二色にはっきりと区別できます。しかし、マクロな目でみるとやっぱり灰色です。つまり、何がいいかという、現実にある様々な問題は極論(白黒)のみでは解決できないということです。現実矛盾した問題でも放っておくわけにはいきません。だから、矛盾していても、自分が正しいと思う方向へ、最小限譲歩して解決の方向へ進めようと思います。最終的に矛盾していた問題も調和という形で解決すると私は信じています。(極論に収束したりして)

以上が読書によって得た私なりの考え方です。しかし、あくまでこれは書いている時点のもので、これが読まれている時点では違う考え方をしているかもしれません。

どうもまとまりのない文章になってしまいました。しかし、題名だけはつけられそうです。「曖昧」です。そのままでは芸がないので、一応横文字にしました。まだまだ人間のできていない私なんか偉そうな文章を書いてしまいました。

皆さんが、反感・共感を得て興味を持っていただければ幸いです。今回、話のタネになった田中芳樹、水野良氏の作品は図書館にもあります。共感をもたれた方は読んでいただいて、自分なりの解釈をしてください。ただ、一言付け加えておきますが、小説は小説、ドラマはドラマにすぎず、現実には現実であること。参考にはしても、模倣しようとは思わない方がいいと私は考えます。

人に考え方を押しつけるのはよくないので、これはあくまで私の考え方という事で……。

## 専攻科卒業生からも一言

### 様々な三国志

専攻科 化学工学専攻 小南良太

三国志というのは西暦200年前後の中国で実際に起こった、群雄割拠といわれる時代を書いたものであり、数多くの英雄が天下を目指して中国

大陸を所狭しと駆けめぐった物語で、この中で行われている駆け引きなどは、現在においても十分参考になり、将来多いに役立つものである。

現在、国内で見られる三国志は大きく二つに分けられる。一つは中国の正史の「三国志」。これは、「史記」、「漢書」、「後漢書」に続くれっきとした4番目の正史で、陳寿という歴史家によってまとめられたものである。もう一つは小説としての三国志である「三国志演義」。これは、明の時代に羅貫中という作家がまとめたものであり、正史のおもしろい部分、昔から語り伝えられてきた巷談や芝居の話を取り入れ、さらにフィクションを織りまぜて、おもしろおかしく仕立てた物語である。一般によく知られているのがこの三国志演義を日本語に翻訳したものである。さらに、これらの小説に加え、マンガにしたものや、アニメーション、写真の映画、人形劇などでわかりやすくしたものなどがある。そして、番外的に付け加えるとすれば、実際に三国志の英雄になった気分でプレイできるTVゲームなどがある。

三国志(演義)を実際に読んだことのある人はわかると思うが、この小説は劉備(蜀)を中心に書かれてあり、徹底的に善玉にしている。それにくらべ劉備に対立した勢力、その中でも特に曹操は当時の朝廷の皇帝(献帝)を手玉に取った、典型的な悪玉になっている。しかし、正史ではこれら善悪の区別がなく、さらに曹操とその息子曹丕が作った魏を正当な王朝としている。そして人物においてもかなり違っている。例えば、諸葛亮である。彼は、小説の中では数々の神がかりな奇略を用いて敵を倒す、というようなものであるが、実際は、石橋を叩いて渡るような、かなり手堅い戦術であった。確かに、先を読む力や、兵法に関しては、かなり高いレベルにあったらしいが、イチかバチかの戦法は、ほとんど使われなかったらしい。そしてもう一つ、あの有名な「三顧の礼」においても、諸葛亮自身が自分の才能を生かしてくれる主君を捜し求めていたところに劉備が現れ、自分から志願したようなことも書かれてある。

このように、小説と正史では違っている点が多々ありますが、実におもしろい。小説の三国志を読んだ人は、機会があれば、「正史」を読むことを勧める。また、劉備の大ファンには、これでもかというほど劉備をひいきにして、「魏」ではなく「蜀」が中国を統一するという「反三国志」「逆三国志」という本もある。最後にまだ三国志を読んでいない人は、これを機に一度目を通してみてはいかがでしょうか。

## 寄贈図書リスト

- | (書名)  | (寄贈者名)                        |
|---|-------------------------------|
| ○ 2色刷絵ときシーケンス制御読本<br>(入門・実用編) 大浜庄司著                 | 本校卒業生                         |
| ○ 工業英語 Technical Terms 7000 (2冊)<br>日本工業英語協会・高橋晴雄著  | 本校教官 高橋晴雄                     |
| ○ 工業英検3級クリアー30時間一 (2冊)<br>日本工業英語協会・高橋晴雄著            | 本校教官 高橋晴雄                     |
| ○ 日本のトロリーバス<br>吉川文夫著                                | 関西電力KK                        |
| ○ 21世紀への旅立ち—十代の参考書—<br>内田玲子著                        | 著者                            |
| ○ メタンハイドレート—21世紀の<br>巨大天然ガス資源— 松本良(等)<br>エネルギー給合工学部 |                               |
| ○ 快盗ルビィ・マーチンソン<br>スレッサー著 村上啓夫訳                      | 本校学生                          |
| ○ 評伝 技師・青山士の生涯                                      | 大和川工事事務所                      |
| ○ 地球規模で考えるエネルギー問題<br>石井威望編                          | 電気事業連合会                       |
| ○ 世界文学全集(全75巻) 他                                    | 奈良市 関野氏                       |
| ○ 三州吉良殺人事件<br>内田康夫著                                 | 本校学生 櫻井君<br>(1994.3.1~6.10受付) |

## 図書館からのお知らせ

◇夏期休業中、図書館の開館時間等は以下  
のようになります。

開館時間	平日	8:30~17:00
	土曜日	閉館
	貸出冊数	6冊

※8月8日(月)~19日(金)は、蔵書点検のため  
閉館します。

◇返却期限は必ず守りましょう。次に借り  
たい人が首を長くして待っています。

◇本予約をした人はできるだけ早く取り  
に来て下さい。でないと後回しになるこ  
ともあります。



# 心に残る一冊の本

—あなたにも薦めたい— (その5)

## 『文章の書き方』

辰濃和男 (岩波新書)

電子制御工学科 栗本 尚

朝日新聞の“天声人語”の元筆者が、わかりやすい文章の書き方について、多くの具体的な例文を示しながら説いた本であって、大いに得るところがある。まず最初に、文章をかくときの準備、または材料を仕込むときの心構えとして、広い円、場(現場)、無(無心・白紙)、欲(意欲)、感覚について書かれている。次に文章を書く上で基本的に大切なこととして、平明、均衡、遊び、具体性、品格について述べられている。最後に、実際に文章を書くときの表現上の心構えとして、整えること、正確、新選ぶこと、流れについてまとめられている。ところで、最近は、ワープロが広く普及し、できあがった見かけ上の文章はりっぱなものになるため、ともすれば文章そのものも上達したかのような錯覚におちいりがちである。よい文章を書くということは、本来ワープロによる仕上がりとは無関係であり、わかりやすい文章を書けるように、もっともっと努力することが強く望まれる。かつて、福沢諭吉の“福翁自伝”を読んだとき、話しことばを本にしたものであるが、何とわかりやすい文章だろうと思った記憶がある。今回この本でも、そのわかりやすさが例文としてとりあげられていたため、思わずうれしくなった。いずれにしても、この本は一読に値する本である。

## 『鏡の中の物理学(「光子の裁判」)』

朝永振一郎著 (講談社学術文庫)

情報工学科 浅井 文男

場面はある事件の法廷。検察官は被告、波乃光子に対する尋問を執拗に続ける。「被告は二つの窓の両方を同時に通ったと予審においても一度ならず主張していたが、そのような奇妙なことを言い張っても誰がそれを信ずるであろう……。」裁判を傍聴している「私」の目にも、論理明晰な検察官の優位は揺るぎそうにないと思われたその時、弁護人が初めて発言を求めた。自信に満ちて被告の証言の正しさ主張する弁護人とそれを突き崩そうとする検察官の間で息詰まるような論戦が展開される。続いて場面は弁護人が要求した実地検証の場。関係者が見守る中、被告の証言を立証するための実験が行われ、証言は疑う余地のない事実であることが明らかになる。驚きの覚めやらぬ検察官や判事を前にして、弁護人は検察官の主張の背後に潜む論理の落とし穴を鋭く指摘し、被告の不思議な行動の本質を明快に語り始める……。

光は波なのか、それとも粒子なのか?この人類2000年にわたる第1級の謎解きを、量子力学的粒子、波乃光子被告に対する裁判劇に仕立て上げた「光子の裁判」は、光の波動性と粒子性の本質を解き明かしたノン・フィクションの傑作である。今世紀の初め、この謎解きに挑んだ若き天才ディラックが演じる弁護人の学者らしい理路整然とした弁舌と、人類が手にした最も華麗で精密な科学理論、量子電磁力学(光と電子の理論)の完成者、朝永振一郎自らが演じる「私」の素人を装った解説はみごとに調和し、読者に深い感銘を与えるとともに自然の秘密を探ることの楽しさを教えてくれる。

思えば技術立国を標榜するこの国の公教育は皮肉にも大量の理科嫌い・物理嫌いを生み出し、今やこれらの科目は青少年の不人気投票No.1の地位を不動のものにしている。しかし、危機もまた契機、である。「光子の裁判」が学生諸君にとって知的好奇心の限りない源泉となり、失地回復・名誉挽回の確かな道標となることを願ってやまない。

# 『知的生産の技術』

梅棹忠夫著（岩波新書）

化学工学科

石丸裕士

本を読んだり人の話を聞いたりしているとき、どこかで聞いたことはあるんだけど意味がよくわからない言葉に出会って、用語辞典を調べても載っていない調べて方すらわからずにイライラしたことはありませんか。これは、筆者曰く、「知識獲得の技術」が不足しているために起こるのだそうです。学校で、また普通に生活して得る知識の量が、そのままその人が発揮できる知識量と言う訳にはいきません。それを如何に整理し、如何に保存しておくかによって、その人が持っている知識量が決まるのです。この本では、その方法論を詳しく述べてあります。

それ以外に、この本には、著者独自の読書論も書かれてあり、「二重に読む」ことのススメを説いています。一度目は書いた人の身になり、最初から最後まで著者の著したかったことを読み取ることに全力を尽くす。二度目は自分が興味を持った部分のみに着目して、自分なりの読書ノートを付けると言ったものです。この読み方をして以来、自分が考えたことと著者の著したいことを混同したり、最後まで読み切らず挫折すると言ったことはなくなりました。今では、これを一般の書物だけでなく、論文などを読むときにも適用しています。

僕の読書法に影響を与えたこの一冊。今すぐにとはいませんが一読をお勧めします。

## 平成6年度読書感想文コンクールについて

恒例の夏休み読書感想文コンクールを、図書館委員会と国語科の共催で行います。先生方から推薦された以下の図書を「参考図書」としてリストアップしました。この他にも興味のある本があれば、自由に選んでかまいません。3年生からは自由参加ですが、積極的に参加し、応募して下さい。

若い時に本を読む習慣がつかなければ、そのままずっと人間の残した素晴らしい財産と無縁で一生を過ごすというさびしい人生にもなってしまいます。この夏は是非、読書好きの人はもちろんですが、本が大嫌いという人も、本の世界に引き込まれ、心の渇きを潤すあるいは満たされた快感というものを味わって下さい。

### 《文学作品》

☆三四郎	夏目漱石	新	潮
☆三国志	吉川英治	講	談社
☆渚にて一人類最後の日	N・シュート	創	元社
☆夏の庭	湯本香樹美	新	潮
★橋のない川	住井すゑ	新	潮
☆マクベス	シェイクスピア	新	潮
恩讐の彼方に	菊地 寛	新	潮
影との戦い(ゲド戦記より)	ル・グウィン	岩	波
巨食症の明けない夜明け	松本侑子	集	英社
津田梅子	大庭みな子	朝	日
ニーベルンゲンの歌		岩	波
白鯨	メルヴィル	岩	波
夕鶴	木下順二	新	潮
羅生門・鼻・芋粥・偷盗	芥川龍之介	岩	波

☆低学年向け ★人権問題係

### 《文学作品以外》

★生きることの意味	高 史明	ち	く	ま
☆王朝びとの四季	西村 亨	講	談	社
☆実録アヘン戦争	陳 舜臣	中		公
☆ソロモンの指環	C.ローレンツ	早		川
☆大往生	永 六輔	岩		波
★娘に語る祖国	つかこうへい	光	文	社
雨森芳洲	上垣外憲一	中		公
清貧の思想	中野孝次	草	思	社
南京事件	秦 郁彦	中		公
日本の弓術	オイゲン・ヘリゲル	岩		波
ガロアの生涯	インフェルト	日	本	評
推理小説を科学する	畔上道雄	講	談	社
ソフトウェアの知識	山本欣子	日	経	サイ
脳の見方	養老孟司	ち	く	ま
ヒトの見方	養老孟司	ち	く	ま
パソコンウォーズ最前線	田原総一郎	講	談	社

# 新・図書委員会スタート！

本年度の図書委員会のメンバーおよび役割分担が下記のように決まりました。委員会では今年度の指導重点目標を「読書生活の充実」と決めました。読書指導などと大上段にかまえなくても、ちょっとしたアドバイスで、読書に対する目が開かれることもあります。昼休みや放課後には当番の先生方が待機して下さいますから気軽に話しかけて下さい。

又、今年もブック・ハンティングを行なう予定です。昨年は1回でしたが、とても評判がよかったので2回行ないたいと委員会では考えています。学生図書委員の人たちも、今から準備して、クラスの意見等をまとめておいて下さい。

図書館委員会		
館長：細井		
図書部会	視聴覚部会	研究要部会
○木村伊 福寛 勢田(月) 野々垣(水) 阪部 早川(金) 宮田 浅井(木) 大植(金) 直江(火)	○阪部 松岡 鈴木 直江(火)	○大植(金) 福寛 野々垣(水) 早川(金) 宮田 浅井(木)
○印は部会長：( )の中は担当曜日		

学生図書委員会					
クラス 学年	M	S	E	I	C
1	南	佛明	中井	有田	水谷
2	板坂	藪	林	藤森	西野
3	立上	後藤田	◎山本	白瀉	田村
4	首藤	◎村井	○大植	山本	小菅
5	岡本	中居	森	東	荒木

◎委員長 ○副委員長

学生図書委員貸出当番表				
月	火	水	木	金
1C 水谷	1I 有田	1E 中井	2M 板坂	1S 佛明
3M 立上	2I 藤森	2S 藪	2C 西野	
3C 田村		3E 山本	3E 林	
			3S 後藤田	

## 5・6月のカウンター日誌より

84  
 5/16 月 1C 水谷  
 5/17 火 2I 藤森  
 5/18 水 3E 山本  
 5/19 木 2M 板坂  
 5/20 木 2E 林  
 5/21 木 2I 藤森  
 5/22 火 1C 水谷  
 5/23 火 2I 藤森  
 5/24 火 3C 田村  
 6/1 火 1C 水谷  
 6/6 月

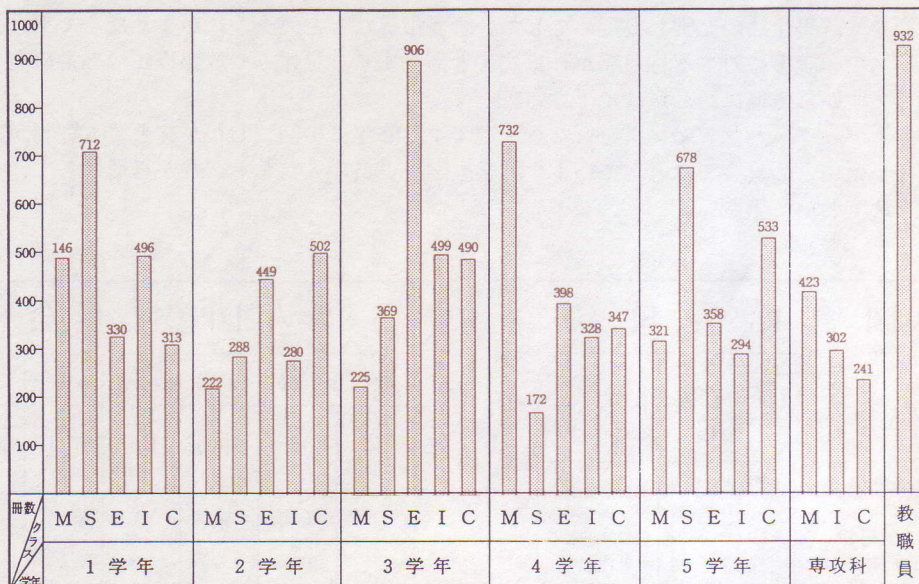
初めてで何か緊張した。  
 毎週来校は次は火曜のテストの日はいけぬ  
 今日来校が火曜の昨日の朝一は11時果て既  
 何を書こうかな？あれ？  
 今日来校は図書館は暖かい  
 今日の本日は早く帰った。

おしん——  
 テスト前であつた。物理化学がわからん!!  
 テストあつた。小説も3冊もかいてました...

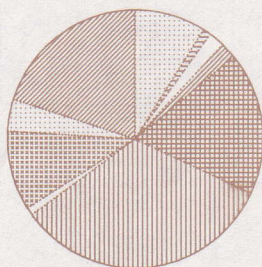
# 平成5年度図書館利用状況

○〔クラス別統計表〕

(貸出総冊数 12,673冊)

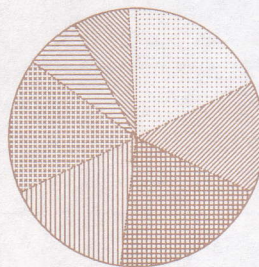


○ 分類番号別統計表



総記	1083冊	9%
哲学	182冊	1%
歴史	246冊	2%
社会科学	284冊	2%
自然科学	2260冊	18%
工学技術	4186冊	33%
産業	28冊	0%
芸術美術	1276冊	10%
語学	545冊	4%
文学	2583冊	20%

○ 学年別統計表



1年	2343冊	18%
2年	1741冊	14%
3年	2489冊	20%
4年	1977冊	16%
5年	2184冊	17%
専攻科	966冊	8%
職員	932冊	7%
その他	41冊	1%

## 奈良高専貸出ベストテン ('93.4.1~'94.3.31)

- |    |                        |        |
|----|------------------------|--------|
| 1  | 電子回路1 (高橋晴雄等)          | 森北出版   |
| 2  | CG STEREOGRAM (根本恒夫)   | 小学館    |
| 3  | 磯野家の謎・おかわり (サザエさん学会)   | 飛鳥新社   |
| 3  | デジタル回路 (伊東規之)          | 日本理工   |
| 5  | 絵ときトランジスタ回路 (飯高成男等)    | オーム社   |
| 5  | CG STEREOGRAM 2 (根本恒夫) | 小学館    |
| 5  | ドラえもんの秘密 (ドラえもん研究会)    | データハウス |
| 5  | じんかくのふいっち (中島らも他)      | マガジハウス |
| 9  | MAGIC EYE (3Dアート研究会)   | ワニブック  |
| 10 | たいのおかしら (さくらももこ)       | 集英社    |

☆ 漫画は除いてあります。

☆ 10位はこの他にもたくさんありました。

## 編集後記

◇ 最近貸出冊数が飛躍的に伸びてきています。この調子だと全国高専No.1も間近いことでしょう。

しかしながら、その内容はとみるとやはり漫画本や軽読書がかなりのウェイトを占めています。漫画を通しての感動や、新しい視野が開けた喜びを一概に否定する訳ではありませんが、何か物足りない気持です。現状を足がかりとして、一步踏み込んだ“考える読書”に進んで欲しいと切に願うものです。

◇ たくさんの卒業生から、社会人として、あるいは学生としての多忙な日々の中、心の籠もったメッセージが届きました。ありがとうございました。今後も、奈良高専図書館の発展・充実のためご支援下さい。(F)